

2002年4月23日第三種郵便物認可（毎月3回5の日発行）
2007年2月24日発行 SSKW 増刊通巻929号

SSKW

海から海へ

No. 13 2007. 2. 24【編集人】

特定非営利活動法人 海から海へ

〒182-0024 東京都調布市布田 1-43-3

オリエンテーション108 うつわ和季内

TEL & FAX 042-441-2958

<http://umi.or.jp> office@umi.or.jp



七羽のうさぎ Seven Rabbits 727x910(mm)©Mizuki Tanaka 1996

海から海へは、障がいをもつ人から渡される豊富なものの存在に気づき、人々と共有するため、障がいをもつ人を中心とした、文化芸術活動、研究活動、社会教育活動、心理カウンセリングなどの支援活動を行うこと、および、それらの活動を通し、障がいの有無にかかわらず、地域・国内・国外を問わず広く交流を深め、人々がより良く生きることにも貢献することを目的とします。

愛と励ましの画家、田中瑞木の作品を常設展示

田中瑞木美術館

いよいよオープン

2007年3月18日(日)より毎日曜日

オープニングパーティ

2007年3月18日午後1時から4時

会費なし 出入り自由

田中章さんをゲストにお迎えし、ギターミニコンサートを行います。お茶を飲みながら、楽しいひと時をご一緒に。

田中章さんのプロフィール

1951年東京都調布市生。ギタリストとして高橋真梨子、武田鉄矢、松田聖子、時任三郎

真田広之など多くのアーティストをサポート。NPO法人「国境なき楽団」(代表庄野真代)理事。

田中瑞木さんは出産時のトラブルで脳に障がいをもって生まれましたが、幼いころから絵を描くことで才能を開花させ、これまでに油絵を主とした67点の作品を描いてきました。

明るい色調と天性の構成力、愛情あふれる対象が瑞木さんの画風です。絵を観た方からは「励ましをもらった」「心が癒された」などの感想をいただいています。絵の前に佇むとき、多くの方が静かな対話を始め、自分と向き合い、自分を愛していると気づきます。自分が生きていることはすてきなことと認めるようになります。自分の中にある愛に気づき、生きていく励ましを得ます。そして、他の人となつがり、その人の世界を大きく広げていくことができるようになります。

田中瑞木さんはこれまで、絵を首都圏各地、新潟、神戸や地元調布などに出前し、大勢の方に鑑賞していただく機会を提供してきました。海から海へはそれを支援し、交流の場を提供し活動してきましたが、このほど、田中瑞木さんを館長とする美術館のオープンにこぎつけました。芽をまいたばかりの小さなスペースですが、今後、本法人の目的に沿う充実した空間に育てていく楽しみを皆さんと共有したいと念じております。

【概要】

場所：東京都調布市布田 1-32-5 マートルコート調布 407号室(地図参照)

館長：田中 瑞木(たなか・みずき)

スペース：2室計約45平方メートルに作品約15点を常設展示(年3回程度、作品入れ替え)

開館時間：毎日曜日の午後1時～5時(入場随時、入口のチャイムを鳴らしてください)

入場料金：無料(NPO会員入会、ご寄付などを歓迎します)

田中瑞木展 in CHOFU

開催予定

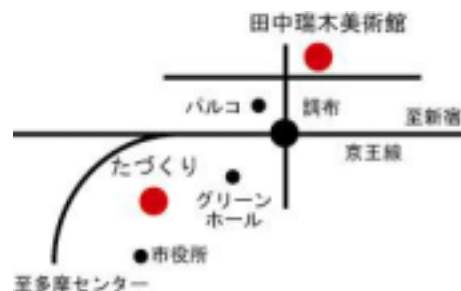
代表作・大作・新作を中心に展示します。

会期 2007年5月19日 6月24日 10:00～17:00

休館日 5月28日(月)・29日(火)

会場 調布市文化会館たづくり1F 展示室

調布市小島町2-33-1



主催 調布市文化・コミュニティ振興財団

協力 特定非営利活動法人海から海へ

会期中、田中瑞木美術館では小品を20点程度展示します。開館日時については後日お知らせします。

🌈 ギャラリートーク

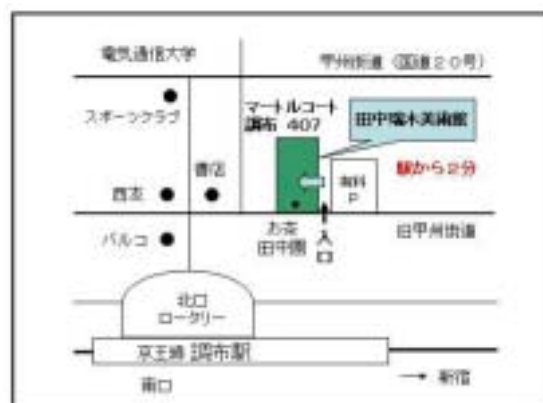
5月26日(土)午後2時 たづくり1F 展示室
本江邦夫(多摩美術大学教授、府中市立美術館館長)
「アートと癒し 作品解説を通して」(仮題)

🌈 お話し

6月2日(土)午後2時 たづくり1F 展示室
阿部愛子(田中瑞木の母、臨床心理士)
「娘と生きてきた道 愛することと信じること」

🌈 講演

6月17日(日)午後2時 たづくり8F 映像シアター
佐藤誠(元日本大学教授、東京神学大学講師)
「アートと学び - 感動を通して」(仮題)



報告

田中瑞木展 in KOBE

本間康浩

神戸大学教員、障がい者から学ぶ会代表、NPO 法人海から海へ理事

油絵画家田中瑞木氏の絵画展を神戸市立王子市民ギャラリーと神戸大学発達科学部の子育て支援施設[あーち]において開催した。

開催に至る経緯と目的は次のようであった。阪神淡路大震災10周年記念事業の一つとして2005年3月5日に神戸酒心館ホールで行われた[命への輝き2005; 座談会~神戸・新潟中越・東京を結ぶ市民の集い~]において、震災という非日常時、障がい者とその支援関係者を中心に作られていた日常的な地域の人のつながりが有効に機能したこと、そのようなつながりを街中に作って行くことの大切さについて意見交換がなされた。その会場で田中瑞木氏の油絵作品数点が展示され、好評を博した。関東甲信越地区中心に行われて来た田中瑞木氏の油絵展は多くの方々の反響を呼んできた。特に、傷ついた心の癒しという効果で注目に値している。人と人とのつながりが弱くなり、地域の癒し力が弱まった社会において障がい者の生き方の中には人間としての「命の力」が輝いている。今回の絵画展は神戸市民の団体が、この田中瑞木氏の「出前ミュージアム」を関西では初めての個展として招致し、更に多くの作品展示を行うことにより、神戸市民の方々に田中瑞木氏の世界を堪能していただくことを目的とした。

同時に、多くの神戸市民が障がい者の方々の持つ「生命(いのち)への力」に心を震わせる場において、臨床心理専門家の講演会・児童相談会などにより、現実には心の悩み、子育ての悩みの中にある方々に具体的なメッセージを与える試みでもあった。加えて、この企画をきっかけに、奮進するコンピュータ社会の中でも人間としての[いのち]を生き抜いていく力を持った次の時代の若者の成長への期待も込められたものであった。

輸送費の問題など困難も多かったが、絵画展の広報活動を行う中で、神戸市の多彩なNPO法人、作業所関係者、商店や地域の医師などの方々の色々な協力をいただくことができ、大都市においても人間関係の構築が何かのきっかけでなしうることを実感できた。また、多くの学生が田中瑞木氏の個展を実施するというに何かしらの「夢」を感じ取って参加してくれた。真の「まちづくり」とは「人間関係の構築」であり、「人間関係の構築」とは、「他人の存在に思いを致す」ことであろう。これは2005年3月の「酒心館」での座談会においても確認したことであった。

自立支援法に典型的に現れたように、この一年の間に日本の社会は大きく「弱者切捨て」へ舵を切りつつある。企業の発展(利潤の追求)なしに社会の発展なしと明瞭な方針で動き始めている。では何のための発展なのか?やはり「文化の発展のため」ではないだろうか?この時代に我々は、むしろ、障がい者の方々の生き様の中に「人間の文化」を見る。

この企画においては外国の方々との交流の機会は持ち得なかったが、もともと神戸は世界に開かれた街である。このような企画により更に世界の人との「人間関係の構築」を行いたいと思う。これこそが、健康で元気な街としての神戸からの発信と言える。

2005年3月の「酒心館」での座談会、および、今回の絵画展の企画に対し、神戸市民の皆様から、多大なサポートをいただいた。また、神戸市立王子市民ギャラリーのスタッフの皆様

には準備の段階から、絵画搬入、設営、毎日の会場の運営、絵画搬出まで、一片ならぬ暖かいご援助をいただいた。ご支援をいただいた多くの方々に厚く感謝の意を表すさせていただく。



旧王子市民ギャラリー館長の西田さんと東京から神戸まで絵を運んでくれた田中海到さん



最終日、搬出を終えたボランティアの学生さんたちや仲間と一緒に会場の王子市民ギャラリー前にて

お礼とお願い

早春の候、皆様におかれましてはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

さて、本法人は、皆様のご支援ご協力をいただき、今年度以下の活動をしてまいりました。

- ✦ 会報 No.10, 11, 12, 13 の発行
- ✦ 出前ミュージアム(通年、市内8箇所)
- ✦ 展覧会開催(8月末から1週間、神戸市立王子市民ギャラリー/神戸大学子育て支援センターあーち)
- ✦ 落語と講演会開催(10月露の団六氏)
- ✦ 相談支援(随時) 地域交流会(随時) 臨床心理勉強会
- ✦ 「田中瑞木美術館」の設立(3月)

来年度は、新美術館を拠点とし、アートを媒介とした社会文化活動をさらに積極的に進めてまいります。本法人の美術館オープンにあわせ、調布市文化・コミュニティ振興財団主催の「田中瑞木展」が、35日間にわたり開催の予定です。期間中には講演会や作品解説などのイベントを企画しております。さらに、調布市社会教育関係団体補助金事業として、「子育て講座 親子の上手なコミュニケーション」の開催も決定しております。今後の活動にご期待ください。

年度の終わりにあたり、皆様からいただきましたご支援ご協力を厚く感謝申し上げます。

来る4月からの2007年度会費納入をよろしくお願いたします。

特定非営利活動法人 海から海へ
理事長 阿部公輝

年会費

正会員 3,000円以上
協力会員 1,000円以上
賛助会員(団体) 30,000円以上
(ご寄付も随時お受けしております)

振込口座

郵便振替: 00110 - 0 - 684539
銀行振込: みずほ銀行 調布支店
普通預金 8082621

口座名称(とも)

特定非営利活動法人 海から海へ



お花畑 A Flower Garden 606x727(mm) © Mizuki Tanaka 1988

編集後記

念願の美術館がオープンする。

5年位前のこと。我が家に来訪者があった。「瑞木さんの絵を見せたい」という伯母さんの勧めで、「引きこもり」の若者が来た。彼は絵の前に一人座った。涙を拭きながら対峙していた姿が今も忘れられない。1時間後、彼は絵のそばを離れ、伯母さんと帰っていった。

その絵は「花火」 さまざまな色の光の放射が自分に降りかかってくる...、体の中へそのエネルギーが注入される...、身体全体に自然な力動を感じる...、そういう絵だ。

その後、消息が届いた。彼は引きこもるのをやめ、帰郷を決めた。現在は農協の職員となっているという。伯母さんは「彼はあの時、絵の前で自分を観たのではないか」という。

瑞木さんの近くにいと、良いことが連鎖していく。本物の絵を見る空間でそれを感じていただけたらと思う。多くの人と喜びを分かちあい、きっと相互作用ですてきなことがこれからたくさん起こるだろう。

不思議なことだが、自然なこと...として。 <愛>

特定非営利活動法人 海から海へ
http://umi.or.jp office@umi.or.jp

2007年2月24日 海から海へ No.13

編集責任者 阿部公輝

〒182-0024 東京都調布市布田 1-43-3

オリエントマンション108 うつわ和季内

Tel & Fax 042-441-2958

発行所 〒157-0073 東京都世田谷区砧 6-26-21

特定非営利活動法人障害者団体定期刊行物協会

定価 200円

無断転載禁止